

市史通信

第35号

【発行日】2019年7月5日
 【編集・発行】横浜市史資料室
 〒220-0032
 横浜市西区老松町1番地
 横浜市中央図書館・地下1階
 【電話】045-251-3260
 【FAX】045-251-7321
 【E-mail】
 so-sisiryoyou@city.yokohama.jp
 【ホームページ】
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/gaiyo/shishiryoyou/>



横浜博覧会の会場光景 1989年7月 横浜市史資料室所蔵・広報課写真資料

左:三井・東芝ガリバー館/右:Wa! TEPCO(東京電力館) 博覧会場には、34の展示館(パビリオン)が立ち並び、リアモーターカー「HSST」や動くベンチ「SK」をはじめとする近未来型の移動手段で結ばれた。

【目次】

- YOKOHAMA 1989
—“平成”スタート
- 新田間川埋立と開発計画
- 戦地から帰った兵士たち
- 閲覧資料紹介
「市民生活白書」(一九六四年)
- 市史資料室たより

YOKOHAMA 1989 ——「平成」スタート

本年四月三〇日、「平成」の時代は三〇年間をもって終わり、「令和」へと引き継がれた。明仁上皇自身が生前退位をテレビをつうじて表明していたこともあり、新しい元号についての国民の受け容れは期待感を含みつつ、平穩裏にすすんだ。そのご成婚からして、国民のテレビ需要に火をつけ、育児のありようを通じて皇族の新しい姿を明らかにし、即位後に生じた幾多の大規模災害に際して、罹災者に直接向き合う姿を、テレビをつうじて茶の間に届けた。まさにテレビに映されることによって自らを主張しつづけた存在であった。

三〇年前の1989(昭和六四/平成元)年の「平成」がスタートした時点は今回とは様相が異なった。平成は昭和天皇が崩御した一月七日の翌日に始まるが、前年からその病状を伝える「ご容体」報道が日々なされていた。日産自動車が発売した新車のテレビコマーシャルは、歌手・井上陽水が発する「お元気ですかあ?」のセリフが、病状の深刻さが伝えられるようになり、音声が消されて放送されるようになり、日本社会全体が自粛ムードに覆われていった。

しかしながら、そのような自粛ムードの一方、沸騰した為替相場や、天井知らずで高騰する地価が沈静化するこ

とはなかった。市場はコントロールできないほどに加熱し、いわゆる「バブル」景気が最高潮に達したのが「平成」がスタートした1989年であった。

「バブル」景気の光と影

「平成経済は明るい船出だが」は、「神奈川新聞」一月一七日の社説のタイトルである。「昭和」が恐慌という暗く重い舞台から幕開けしたのに比べ、「平成」は絶好調景気という明るい照明の下で第一楽章を迎えた。一人当たりのGNP(国民総生産)は世界のトップクラス、さらに世界最大の債権国という耳に快い旋律も響いてきて、つい浮かれがちである。社説の論旨は、成長著しいアジア経済に果たす日本の役割の大きさや、債権大国にふさわしい生活実感を日本が体得する必要性を論じたものであったが、そのなかで、「失われた20年」あるいは「失われた30年」とも評される長い不況に結びつく「影」がしのびよっていたことは、歴史が知らしめるところである。

一九八五(昭和六〇)年九月、ニューヨークで開催された「五カ国蔵相・中央銀行総裁会議(G5)」で取り決められたいわゆる「プラザ合意」以降、貿易・財政両面での「双子の赤字」に苦しむアメリカ経済を支えるため、各国は為替の協調介入でドル安へと誘導した。最大の対米債務国であった日本は、その率先的実践国となった。一ドル二四〇円前後であった円相場は二年

後には半分の一二〇円まで低落する。一方で、輸出依存度が高い製造業は急速な円高で体力を奪われていった。とくに京浜工業地帯の打撃は大きかった。その象徴的な出来事が、八七年に発表された、日本鋼管(現JFEスチール)

京浜製鉄所・第二高炉の休止と三三〇〇人の労働力削減計画であり、同社は生産拠点を広島県福山に移す方針を示した。京浜地区にとって、下請け企業を含めて甚大な影響が見込まれる「鉄冷え」の時代が到来した。ドル建収入の激減に伴う海運不況は、世界的な船腹過剰による一九七〇年代半ばからの造船不況に拍車をかけた。高度経済成長期に、地方からの労働者を大量に受け入れた京浜の重厚長大産業は、構造的な縮小局面を迎えていたのである。

また、円高ドル安のもとで、国内企業の海外への直接投資が盛んとなり、日産自動車は、八六年からイギリスに生産工場を稼働させた。産業空洞化の条件も膨らみつつあった。

政府がとった低金利政策と銀行による過剰融資は資金のたぶつきを呼び、不動産や株への投資が沸騰して相場が過剰な高値を記録していた。「神奈川新聞」一月二八日には「県内の最高路線価 平均59・2%上昇」と、前年の実績であるが地価高騰の勢いが止まらなかった。横浜中務署管内では、西区南幸一丁目(高島屋前・バスターミナル前通り)が一平方メートルあたり一一九〇万円(上昇率三八・四%)、神奈川

税務署管内では同区鶴屋町(県政総合センター前・西鶴屋橋通り)が三七〇万円(一〇〇%)と高騰していた。当時の日本には地価は上昇し続けるという「土地神話」が生まれた。

個人消費と民間設備投資は旺盛であった。前年度上半期の実績で、県内企業の約八割が所得を増やし、三〇億円以上では、日本ビクター、サカタのタネ、本間ゴルフクラブなどが、前年比で約二〇パーセントの伸びをみせていた(「神奈川新聞」三月二日)。

みなとみらい21地区と横浜博覧会

1989年、横浜市は開港一三〇年・市政一〇〇周年の記念年にあたっていた。横浜市は、横浜博覧会「YES'89」を開催した。会場は「みなとみらい21地区」。一九六五(昭和四〇)年に打ち出された都市改造計画、いわゆる「六大事業」に盛り込まれた、都心部強化事業として着眼され、一九八〇年代の「よこはま21世紀プラン」に引き継がれた巨大プロジェクトである。関内・伊勢佐木町と、横浜駅周辺地区とに分断された繁華街を結ぶべく、明治期以来の三菱重工横浜造船所(旧横浜船渠)を本牧と金沢に移し、新たに海面を埋め立てて拡張したエリアであり、博覧会はそのお披露目の役割を担うものであった。当地区には、ホテルの進出計画など、博覧会以後の開発をもくろむ企業が名乗り出ている。

横浜博覧会(YOKOHAMA EXOTIC

SHOWCASE'89)は、「宇宙と子供たち」をテーマに、三月二五日〜一月一日までの一九九一日間開催された。日銀横浜支店は一兆円の経済効果と試算した。しかし客足は想定通りには伸びず、四月末には夜九時三〇分までの時間延長などの観客誘致策がとられた。

市政一〇〇周年をうたった横浜博覧会、市制一〇〇周年を迎えた国内各都市で催される地方博と競合した。大規模なものとしては、名古屋デザイン博、アジア太平洋博―福岡'89(よかとピア)、89海と島の博覧会・ひろしま、などがあつたが、横浜博がもつとも意識したのは、八一年に開催された神戸ポートアイランド博(ポートピア)であった。東西を代表する貿易港であり、埋立地のお披露目を兼ねた博覧会という点でも同質であった。入場者数ばかりでなく、入場者一〇〇万人ごとに要した日数や一日当たり入場者数まで数値化し比較した(結果はいずれも神戸が横浜を上回った)。横浜博は、目標一二五〇万人のところ一三三三万人の総入場者数を得て閉幕した。

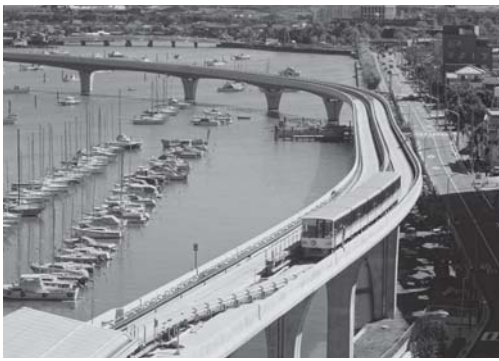
「六大事業」の目鼻立ち

都心部強化事業は、三菱重工横浜造船所の移転と、みなとみらい21地区の出現によって歩みを大きく進めることとなった。その他の「六大事業」、金沢地先埋立・港北ニュータウン計画・高速道路網建設・高速鉄道建設・ベイブリッジ建設、も一定の到達をむかえ



建設中のベイブリッジ 1989年1月頃 斜張橋としては世界最大だった。横浜市史資料室所蔵・広報課写真資料

ていた。1989年最大のエポックは、本牧ふ頭と大黒ふ頭を結ぶベイブリッジの開通であった。本牧ふ頭のコンテナヤードで陸揚げされたコンテナは、トラックに積まれて、横浜関内の中心部である本町通りを通過し、仕向地向かった。当時の本町通りは巨大なトラックが往來して渋滞する「コンテナ街道」の異名があつた。ベイブリッジ開通でこの状態が解消されることが期待された。くわえて優美なデザインの斜張橋は観光資源としても有望視された。ベイブリッジは一九八一(昭和五六)年に起工。開通とともに巨大な橋脚に付置された海上五〇メートルの位置にある展望施設と遊歩道「スカイウォーク」も公開された。大黒ふ頭側には首都高最大のサービスエリアがつくられ



金沢シーサイドラインと平潟湾
1989年10月 横浜市史資料所蔵・広報課写真真資料
無人運転の車両が金沢八景駅に近づく。

た。九月二七日の開通に先立ち、ライ
トアップの点灯式が、横浜博の会場内
で行われ、夜の闇に全長八六〇メート
ルの斜張橋が浮かび上がった。

しかしながら、高速料金の節約から、
ベイブリッジを回避するコンテナトラ
ックは少なくなかった。この状況は二
〇〇四（平成一六）年、ベイブリッジ
の下層に国道三五七号線が敷設される
まで続いた。一方、観光資源としては
早くからミナト横浜を象徴する「名所」
として機能した。

金沢埋立は、前年の一九八八（昭和
六三）年五月に完成記念式典が挙行さ
れ、海の公園海水浴場もオープンした。
根岸湾以北の埋立が、工場用地や港湾
施設の創出を主目的としていたことに
対して、金沢埋立は市街にある中小工
場を移転させ、研究施設を誘致し、住
宅地を創出して、リクレーション施設
を備えるという多目的な埋立事業であ

った。七月、この金沢埋立地内を結ぶ
「金沢シーサイドライン」（金沢八景
（新杉田）が開業した。

高速道路網建設は、東名高速と結ぶ
保土ヶ谷バイパスが一九七四（昭和四
九）年に完成していたが、八一年には
金沢区の朝比奈と保土ヶ谷の狩場を結
ぶ横浜・横須賀道路が開通し保土ヶ谷
バイパスと連絡した。首都高横羽線が
八四年に全通（羽田（石川町）して、
東名（横浜）羽田が高速道路で結ばれ
ている。またベイブリッジと連絡する
首都高湾岸線も予定されていた（九四
年空港中央（大黒間開通）。

高速鉄道建設は、現在の地下鉄ブル
ーラインの戸塚駅が八月に開業し、新
横浜と通じた。あざみ野方面、湘南台
方面への延伸も進められて、港北ニュー
タウンと連絡する新横浜（あざみ野
開通は、九三（平成五）年であった。

港北ニュータウン計画は、単なる住
宅団地の建造を意味するものではなく、
①乱開発の防止、②都市農業の創造、
③住民参加、を理念としたまちづくり
が進められたが、多様な主体が、多様
な内容をもって同時進行する事業であ
った。「六大事業」が提唱された当初、
港北区内に開発地区があり、事業名称
も「港北」であったが、一九六九（昭
和四四）年に分けて「緑区」の一部
になっていた。89年段階の画期を特定
するのは難しいが、新たなコミュニテ
ィ創出の一助としての「港北ニュータ
ウンまつり」が八五（昭和六〇）年九

月に始められて以降、毎年挙行されて
いること、九三（平成五）年にはニュ
ータウン地区が「都筑区」として緑区
から分かれることを指摘するにとどめ
たい。

以上見てきたように、1989年は
「六大事業」が提唱・着手されて四半
世紀が経過して事業の進展がみられ、
都市改造が中心部におよんで、「六大事
業」の目鼻立ちが明瞭になった時期
と位置づけられる。そしてその象徴が、
みなとみらい21地区で開催された横浜
博覧会と、ベイブリッジであった。

「集い」の場の創出

市政一〇〇周年を記念した施設とし
て、横浜博覧会の開催とともに、パビ
リオンの一つとして「横浜美術館」が
オープンした。同様に、三菱重工横浜
造船所の第一号船渠を保存して帆船日
本丸を係留した博物館「横浜マリタイ
ムミュージアム」も同日開館した（後
者の現在の名称は「横浜みなと博物館」）。

博覧会開催の翌週、新横浜に「横浜
アリーナ」が開業した。こけら落とし
は松任谷由美のコンサートで四月一日
（三日、五日の計四日間であった）。

「横浜女性フォーラム」は前年の八
八年九月開館。「都筑自然公園」は八
七年一〇月に、「横浜国際平和会議場
（パシフィコ横浜）」は八八年一二月に
それぞれ着工した（「都筑自然公園」
は「横浜動物の森公園」として拡充さ
れた）。三溪園内の「三溪記念館」も

この年オープンした。前年から取り組
まれていた歴史的建造物へのライトア
ップ事業も対象となる建物が拡充され、
夜の観光へとみちびいた。

戦前（戦後）にかけて、「愛市の花」
として横浜市民に親しまれていたバラ
が、「市花」として制定・公表された
のは九月二三日であった。

以上のように、1989年の記念年
にさまざまな施設がオープンし、ある
いは事業の着工をみたのであった。重
厚長大産業の黄昏を背景に、一方で豊
かになった観光客を取り込む横浜市の
方策が進みつつあった。

「昭和」の終わり

磯子生まれの歌手・美空ひばりは、
六月二四日に間質性肺炎のため順天堂
大学病院で逝去した。享年五二才。弱
冠一二歳で主演した「悲しき口笛」（一
九九九）で廃墟となった横浜の街とと
もにスクリーンに登場し、高度経済成
長期に歌手としての絶頂期を迎えた。
高度成長が終わる時期に親族の問題か
らテレビを干されるものの、いくつも
の名曲を残した。美空ひばりは、復興
を実現した日本国民の伴走者であって、
戦後を体現した存在であった。それが
奇しくも日本経済の絶頂、昭和の終焉、
平成のスタート地点でその生涯を終え
た。四月一七日に予定されていた横浜
アリーナでのオープニング・ライブは、
ひばりも熱望したものであったが、幻
に終わった。（平野正裕）